

青木繁 洋画家。明治ロマン主義絵画の絶頂「海の幸」を描いた後、悲劇的な生活に陥って夭折した。

あおきしげる

新体詩抄・1882 = 有馬藩の下級武士青木廉吾の長男として久留米市に生まれた。

国民之友始・1887 = 5歳：尋常小学校に入学。

帝国憲法発布1889 = 7歳：

足尾鉦毒始・1891 = **9歳**：高等小学校に入学。_坂本繁二郎と同級で、

日清戦争始・1894 = 12歳：

日清戦争終・1895 = 13歳：中学明善校に入学。級友と文芸雑誌「画藻」を出すなど早くから文芸に関心が傾くが、

白馬会・1896 = 14歳：この頃から、_繁二郎とともに久留米の洋画家森三美に絵を習う。

Bushidou・1899 = 17歳：前年に落第した同校を_退学して上京、不同舎に入って小山正太郎の指導を受けた。

ビブア国産化・1900 = **18歳**：東京美術学校西洋画科選科に入学。

黒田清輝らの外光派的表現を学ぶが、さらに「古事記」などの日本神話、ギリシア神話、インド外道諸派の物語を耽読し、ラファエル前派にひかれ、独特のロマン主義的画風を形成し、

日比谷公園・1903 = 21歳：第8回白馬会展に、*「古事記」に取材した「黄泉比良坂」などを出品し、第1回白馬会賞を受賞。

日露戦争始・1904 = 22歳：東京美術学校を卒業、この年の夏、森田恒友、坂本繁二郎、福田たねらと千葉県布良海岸に写生旅行し、モネの影響を思わせる数点の海景と、青木繁の代表作となったばかりでなく、*明治ロマン主義絵画代表する「海の幸」を制作。日本古代に想を得た「享楽」「天平時代」など、幻想的な秀作も描かれ、生涯で最も盛んな年になった。詩人蒲原有明との交友もはじまり、その詩集に描いた口絵、挿絵も傑作になっている。

日露戦争終・1905 = 23歳：

韓国反日暴動1907 = 25歳：*自信作「わだつみのいるこの宮」を東京府勲業博覧会に出品、夏目漱石らの賞賛はあったものの、3等賞にとどまる。この年父が死亡したため、恋人福田たねとも別れ、久留米に帰郷して弟妹の養育にあたらうとするが、父の負債をめぐって家族と衝突し、

アライ 創刊・1908 = 26歳：*家を出て天草など九州各地を流浪。貧困や病気に苦しみながらも、大作「漁夫晩帰」等を制作したが、

伊藤博文暗殺1909 = **27歳**：

大逆事件判決1911 = 29歳：福岡市松浦病院で、_没した。